

令和7年度 学校評価報告書

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A:そう思う B:ややそう思う C:あまり思わない D:思わない E:わからない

評価 A:十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		結果	校内評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員評価
				A	B					
総務部	広報活動の強化	ホームページの随時更新と共に、インスタ等の活用も検討しながら、より見やすく分かり易い情報発信に努め、広報活動の充実を図る。	保護者(13)・教員(1)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	保:89% 教:96%	B	●インスタの開設もあってか、保護者評価が若干向上しA評価に近づいたが、各部署(学科、分掌、部活動等)で掲載回数には差があり、掲載のタイミングもタイムリーでない時があったため、記事の更新が課題である。	○全教員が、各分掌等において諸々の行事の記事作成(HP更新)が実施(特に部活動)できるように、HP講習会の時期や参加方法を検討し、よりスムーズに対応できるようにする。	B
	PTA活動の活性化	①PTA総会・評議員会・農業祭等での参加を呼びかけ、PTA諸活動を通じて、保護者と教職員の相互理解と連携を深める。 ②定期的なPTA会報の発行(5・7・2月)と、ホームページの更新等により、保護者への情報発信に努める。	保護者(18)・教員(2)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	保:82% 教:98%	B	●PTA総会時に進路関係の資料を配布したり、生産物の販売(苗ものの配布)も行ったりしながら出席者数の増を図っているが、3割維持がやっとだった。 ●農業祭時、PTAのお店を2日間連続で出店いただいた。両日の出店にも関わらず、役員の皆さんが大変協力的で、両日とも円滑に運営することができた。 ●年3回のPTA会報(第3回は2月下旬発行予定)は発行できた。PDF化してHPに掲載することも実施したが、内容は引き続き検討が必要である。	○生徒の活躍の様子をこまめに収集し、年3回の発行を継続しながら情報発信を続ける。 ○学校アシスタントなどの協力も得ながら情報収集に努め、HP等への掲載をタイミングよく行う。	B
教務部	自己管理能力の育成	保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をとおして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。	生徒(16)・保護者(8)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:95% 保:91%	A	●多くの生徒は、理由のない遅刻や欠席がほとんどないことがパーセンテージに反映されている。一方で、遅刻や欠席が多い生徒もあるため、延べ総数としては少なくない。	○遅刻や欠席の多い生徒に対して、担任・学年部・健康相談部などと連携して多方面から指導をする。その際、きちんと出席することの意義なども理解させる。	A
	キャリアプランニングの推進	漢字検定、文章読解・作成能力検定の全生徒受験に加え、英語検定や農業技術検定、各科専門資格等への挑戦をとおして生徒のキャリアアップに努める。	生徒(9)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合 1、2年次は今年度取得した資格数が1つ以上の生徒の割合 3年次は3年間で3つ以上の生徒の割合	90%以上	80%以上	生:72% 資格:67%	C	●全員受験とし、その指導が学年・学科単位で行われているものについては、それなりに合格者数が出ている。意欲的に取り組み、実際に複数の資格取得・検定合格ができた生徒も多数いる。ただ全体で見るとときには目標が達成できていないのには、意欲だけではなく基礎学力が備わっていない生徒が少なくないことも要因として考えられる。	○様々な資格・検定の生徒への案内を徹底するとともに、合格を目指すことの意義を理解させる。またそれを達成できるための基礎学力を日々の授業や活動のなかで定着させる手立てを講じる必要がある。	C
生徒指導部	校内外で積極的な挨拶の実践	生徒会・風紀委員・教員で挨拶運動週間を実施。全校集会、学年会などでも呼びかけを行う。	生徒(13)・教員(3)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	生:97% 教:49%	C	●生徒の自己認識と教員の評価の差が激しい。1,2学期の挨拶週間(立番指導)以外に効果的な取り組みを実行することができなかった。	○社会生活における挨拶の必要性や効用について生徒に伝えることで、自発的な挨拶へつなげる。 ○風紀委員会の活動の活性化。	C
	自転車の交通マナーの強化	全校集会、学年集会などの場面で法令・マナーの遵守や命を守るための適切な運転の呼びかけ、学期に1回の街頭指導においても注意・指導をしていく。	生徒(15)・教員(4)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	生:97% 教:31%	C	●春～秋にかけて軽微な自転車事故が多発し、運転マナーについて地域からの苦情・心配も寄せられた。臨時の全校朝礼を開催するなど、その都度指導は行ったが、生徒たちには自分事として捉えられてない現状がある。	○交通安全教室の形態・内容を見直す。 ○定期的な街頭指導以外に、事故や苦情等の内容や場所に応じた即応性の高い街頭指導を行う。 ○交通自治委員会の活動の活性化。	C
進路指導部	生徒の進路実現を達成するための体系的な指導体制の構築	求人状況の速やかな公開、面接指導・小論文指導(3年)、進路ガイダンス・進路希望調査・キャリア・パスポートを効果的に行う。	生徒(27)・教員(5)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	生:95% 教:98%	A	●Classroomを利用した履歴書作成や進路情報の提供が浸透してきている。 進路に関する調査依頼・ガイダンスが増えてきている。生徒や教員の過重負担にならないようにしたい。	○増やすだけではなく精選を進める。	A
	本校の特色を生かした進路決定	インターンシップ、プロジェクト発表、農場当番、意見発表、鑑定競技などの農業高校ならではの取り組みが、面接ノート(3年)、キャリア・パスポートに適切に記録されるよう促す。	生徒(22)・保護者(11)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	生:95% 保:94%	A	●生徒・保護者・教員間での共通認識を徹底したい。農業高校ならではの取り組みが進学や就職に関わらず活かせる点を自覚させたい。	○キャリア・パスポートの振り返りだけではなく、自身の活動実績として効果的に利用させていく。	A
健康相談部	保健関連行事の適切な運営	健康診断や健康教育、安全点検や環境整備作業など、生徒の健康管理や良好な教育環境の維持に資する各種行事を適切に行う。	保護者(15)・教員(6、7)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	保:89% 教:93%,89%	A	●関係機関や校内の協力を得て、予定していた保健関連行事をすべて遂行することができた。 ●教育環境を維持するためには、日頃の点検や清掃活動に力を入れ、今ある設備を維持できるよう取り組んでいく必要がある。	○環境整備に関わる活動については、常に校内環境の情報収集し、整備必要箇所等を把握するなど、状況に応じた対応をしていく。	A
	教育相談活動の充実	関係教職員と連携を図りながらSCの活用や教育相談委員会・ケース会議等を適宜開催し、生徒の情報共有や支援に努める。	教員(8)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	79%	B	●問題を抱える生徒に対して、早期の把握、情報共有、協議を通じて支援につなげることができるよう努めた。 ●諸会議が一部の関係者のみで行われているので、見えない部分が多々あるのではないかと。すべての人が認知し、早期対応できるようにしたい。	○年度はじめに教員対象に支援体制を周知し、関係教員、学年部等の協力を得ることはもちろん、全ての教員で生徒の情報の早期把握、共有化を図り、連携した支援体制を構築していく。	B
図書部	読書意欲を高める環境づくりに努める	①生徒・教職員による選書を行い、魅力的な蔵書を構築する。 ②生徒図書委員会の主体的な活動を支えるとともに、イベント開催や日常的な展示等により読書活動を推進する。	一冊以上借りた生徒の割合	55%以上	50%以上	36%	C	●昨年度に比べ、一冊以上本を借りた生徒の割合が減少した(昨年50%)。実際、本を借りる生徒は固定化の傾向がある。今年度立ち上げた出農図書館ウェブサイトの周知が十分ではなく、新着図書情報が生徒たちに伝わりきらなかったことも、要因の一つではないかと考える。	○出農図書館ウェブサイトの内容をさらに充実させ、ポスター掲示を行うなどしてウェブサイトをPRし、新着図書情報が確実に生徒たちに届くようにする。また、絵本を読む会や季節ごとの展示も継続して行い、生徒たちの読書活動を支援していく。	C
	教育活動への支援の充実を図る	①各教科・学年会と連携して、図書館を活用した授業を支援する。 ②生徒が興味を向け探求を深められるよう、多様な資料を提供するとともに、調べ学習のスキルアップ支援など、情報活用能力の育成に資する。	生徒(30)・教員(9)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:97% 教:98%	A	●今年度は1年生を対象に、好きなテーマで、図書館にある資料と各自の端末を用いて情報収集をする練習を行った。課題研究にもつながる内容であるため、1年次より計画的に実施する必要があると考えている。	○各クラスのHR(図書館利用)の時間を活用して探究活動に必要な資料の検索方法を紹介したり、生徒のニーズに応じた資料の提供を計画的に行っていく。また、学校図書館を授業等で活用して頂けるよう、各教科と連携をとり、図書館を利用した授業がスムーズに行えるよう支援する。	A

令和7年度 学校評価報告書

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A:そう思う B:ややそう思う C:あまり思わない D:思わない E:わからない

評価 A:十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		結果	校内評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員評価
				A	B					
寮務部	意欲的な学習態度の育成	通常時60分、試験期間90分の学習時間の確保と、個に適した学習環境(食堂、舎室)を提供する。	生徒(20)・保護者(16)・教員(10)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	生:94% 保:85% 教:76%	B	●通常、試験期間ともに学習時間の確保ができた。とくに、試験期間中は、舎室だけでなく、申し出により食堂で意欲的に学習に取り組む様子うかがえた。	○舎監の方々の協力をえながら、特に食堂での学習環境を整えていきたい。両校の寮生が寮の心得を理解し、よりよい学習環境になるように呼び掛けていきたい。	B
	快適な寮生活を目指して、寮内の環境美化の推進	①週番業務により責任感を持った寮生活を送るよう指導する。 ②自治意識を持ち、互いに注意し合える雰囲気をつくる。	生徒(21)・保護者(17)・教員(11)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	生:100% 保:76% 教:72%	B	●舎監の方々の呼びかけや協力により、寮生がほぼ責任感を持った生活を送ることができた。 ●南側の木の伐採、夏の保護者による清掃活動、日頃の清掃や学期ごとの清掃など、寮内外の環境美化がほぼ推進できた。	○出雲農林・大社の寮生同士が、普段からのコミュニケーションを取りながら生活していくように促していきたい(風呂の時間等)。 ○舎監の方々の協力をえながら、普段の環境美化についてもう少し呼び掛けたい。	B
農場部	研究活動の推進	①実験・実習を積極的に展開する。 ②生徒主体の探究的学習を推進する。	生徒(2,22)・保護者(1)・教員(12,13)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	60%以上	生:92%,95% 保:99% 教:98%,93%	A	●課題研究や各教科における教科実習など積極的に取り組むことができた。また、データの利用や活用など工夫して取り組むこともできた。	○データをとることが目的ではなく、データ活用を通して自分自身の成長につながるような支援を行う学習活動が展開できるようにしたいと考えている。	A
	専門科目関連への進路実現	①資格試験への積極的な挑戦と全員が1つ以上の資格を目指す。 ②自営学科(農林大学校等)への進学指導を強化する。	生徒(8,9)・保護者(11)・教員(14)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合 生徒(9)は1つ以上の資格・検定の合格者	80%以上	60%以上	生:88%,72% 保:94% 教:95%	A	●様々な資格試験に積極的にチャレンジし今年度の多くの生徒が合格した。FFJ検定やアグリマイスターゴールド、プラチナを取得する生徒が増えるような活動を継続して行きたい	○就農を目指す生徒を一定数確保するために今後の関係団体との連携を密に取り農業関係人口創出を図りたい。また、学校休業日などを活用した農家研修など農業の魅力発信に努めたい	A
植物科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・積極的にあいさつを行う。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	生徒(13,14)・保護者(9,10)・教員(15,16)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:97%,97% 保:88%,92% 教:100%,95%	A	●各取り組みに対する評価は概ね良好であった。しかし、生徒と保護者の評価で差がみられることから、学校と家庭との連携を一層密にすることが引き続き重要である。	○生徒の学校生活等の情報を教員間で共有し、学校生活において場面に応じた適切な支援や声掛けを行うことで社会に通じる人間力の育成に努める。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」等、授業の充実を図り、主体的に問題解決に向けて粘り強く探究する姿勢を育てる。 ②資格取得に向けての意識付け指導を行う。	生徒(2,5,9)・保護者(2,22)・教員(17,18)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:92%,97%,72% 保:94%,77% 教:95%,86%	B	●専門科目に対する基本的な学習姿勢についての評価は概ね良好であった。一方、専門科目を進路実現に結び付けて学習する意識や、資格取得への取り組みについては評価がやや低いことが課題である。	○授業や実習等の中で学習の目的や将来とのつながりを示すとともに、資格取得を見据えた目標設定の機会を設けるなどして、生徒の主体的な学習意欲の向上を図る。	B
環境科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守を徹底させる。 ②気持ちの良いあいさつや言葉づかい、服装の指導を行う。	生徒(13,14)・保護者(9,10)・教員(19,20)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:97%,97% 保:88%,92% 教:90%,87%	A	●社会に通用する人材の育成を念頭に置き、授業や実習を展開するように務める。	○継続して取り組む。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業を充実させる。 ②資格取得に向けての指導を強化する。	生徒(2,5,9)・保護者(2,22)・教員(21,22)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:92%,97%,72% 保:94%,77% 教:95%,95%	B	●職業資格の取得が自分の将来や進路につながることを意識させ、意欲を持った取り組みができるような環境を整える。	○継続して取り組む。	B
食品科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	生徒(13,14)・保護者(9,10)・教員(23,24)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:97%,97% 保:88%,92% 教:90%,86%	B	●取組に対する評価は概ね良好であり、特に生徒の自己評価が高い傾向にある。一方で、保護者・教員による評価と生徒自身の評価には差が見られるため、今後も家庭との連携を密にし、学校生活を通じて社会に通用する人間力の育成に努める。	○生徒への支援・声掛けの徹底とともに、当番実習等の予定を早期に掲示するなど、情報共有の迅速化を図る取り組みを継続して行う。これらを通じて、生徒が見通しを持って主体的に活動できる生活環境を構築する。	B
	自ら学ぶ姿勢の育成	「農業と環境」「課題研究」を中心に問題解決型学習の充実を図り、専門教科への主体性と探究心を育てる。	生徒(2,5)・保護者(2)・教員(25)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:92%,97% 保:94% 教:100%	A	●取組に対する評価は良好であった。今後は生徒の主体性や探究心を高めるため、より実践的な授業を展開し、学びの深化を図る。	○生徒の学習意欲をより一層高めるため、引き続き実習・実験・演習などを中心とした実践的な授業を展開する。	A
動物科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	生徒(13,14)・保護者(9,10)・教員(26,27)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:97%,97% 保:88%,92% 教:91%,88%	B	●生徒からは高い評価であった。保護者や教員の評価とはいづらく温度差が見受けられることが課題である。	○朝終礼や授業、農場当番の際に、場面にふさわしい行動や態度(服装含む)がとれているのか確認や声掛けを行うことで、実社会で通用する生徒の育成に努める。	B
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」を中心に課題解決型学習の充実を図り、専門教科の学びに対する主体性と探究心を育てる。 ②家庭学習を利用し、専門知識の定着を図る。	生徒(2,4,5)・保護者(2)・教員(28)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:92%,96%,97% 保:94% 教:91%	A	●生徒が主体的に学ぼうとする姿勢が見受けられるが、学年により捉えかたに違いがあるかもしれない。 ●ICT機器の活用により家庭学習の機会を増加させることができた。	○OSAを含めた低年次の専門科目においてさらに課題解決型学習の充実を図ると同時に、ICT機器の活用による反転学習の機会を増やす。	A

令和7年度 学校評価報告書

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A:そう思う B:ややそう思う C:あまり思わない D:思わない E:わからない

評価 A:十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		結果	校内評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員評価
				A	B					
一年部	基本的な生活習慣・学習習慣の確立	①クラス、授業、学年集会等を通じて、生活習慣を整え、高校での学びの意義についての指導を行う。 ②マナトレなどを活用して学習へ意欲的に取り組むように指導する。	生徒(6、10、11、15)・保護者(9、10、20)・教員(29、30)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:35%,87%,82%,97% 保:88%,92%,70%, 教:88%,88%	B	●中学までは比較的狭い環境の中で育ってきた生徒たちが、高校に入学して様々な地域から来た仲間に出会い、新たな価値観の中で自分の生活習慣や学習への態度を農林高校の枠組みの中で再構築したと思う。 ●学年会では学校の枠組みを伝え続けることに気を配った。	○家庭学習に関して生徒の自己評価が低いのは、家庭学習をもっとしなければならぬという自覚があるものの実際には取り組めていない実態を分かっているということである。引き続き、マナトレなどを利用して家庭学習を促していきたい。	B
	地域へ視野を広げようとする探究心を持った生徒の育成	専門科目に意欲的に取り組むよう指導する。	教員(31、32)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	教:88%,88%	B	●各科の特色を生かした活動がおこなわれている。県内研修や農業祭などでの学びの意義は大きい。	○各科の特色を生かして、生徒の視野を広げていけるような取組をおこなってほしい。	B
二年部	社会に通じる人間力とコミュニケーション力を持った生徒を育成する	相手の立場に立って考え、場に応じた挨拶や言葉遣い、活動や態度、発言や発表ができるように指導する。	生徒(13、14)・保護者(9)・教員(33)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:97%,97% 保:88% 教:88%	A	●普段の実習、当番だけでなく、インターンシップ、農業祭、県外視察研修旅行等、様々な行事を通じて、多くの方々と交流しコミュニケーション力を高めることができた。	○引き続き多くの活動を通じながら、多くの方とコミュニケーションをとる中で、相手を気持ちに配慮し、場に応じたふるまいができる力を育成していく。	A
	自ら学ぶ姿勢で志を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する。	①進路実現に向けて主体的に資格取得や学力向上に向けて学習できるように指導する。 ②課題研究、インターンシップ等を通して、身につけた知識技能が社会に役立つことを実感できるように指導を充実させる。	生徒(9)・保護者(22)・教員(34、35)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:72% 保:77% 教:88%,88%	B	●多くの生徒にとって、資格取得を目指し様々な試験に挑戦することがモチベーションとなり学習意欲を高める好循環を作ることができている。また、課題研究等を通じ学んだこと実践に移すことも生徒が学習成果を実感できる場となっている。ただし、資格・検定試験の受験料が上昇傾向にあるのは課題である。	○資格取得によって進路選択の幅が広がることもあるので、資格取得のメリット等をしっかり説明し、意欲的に受験する生徒を増やしていきたい。また、課題研究等の活動は引き続き充実したものとしていく。	B
三年部	最高学年として他の模範となる生活態度を実践し、自己管理能力を身につけた生徒の育成	授業、HR、学校行事等の場面で随時指導する。 ①状況に応じた言葉遣いやあいさつができるように指導する。 ②より良い学習環境の中で意欲的に学べるように黒板消しや教室美化を徹底する。	生徒(11、12、15、16、17)・保護者(9、10、15)・教員(36、37)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	生:82%,86%,97%,95%,98% 保:88%,92%,89% 教:88%,88%	A	●日々の挨拶、清掃など当たり前のことを大切にしきちんとおこなうことができた。また、最高学年としての自覚を持ち、学校行事では他学年をまとめ創意工夫のあるものにできた。 ●一方で、各自が進路実現にむけ個々の目標に向かって一生涯取り組めるクラス環境があり、落ち着いて日々の学校生活に取り組むことができた。	○挨拶、清掃などの基本的な生活習慣は多くの生徒がしっかりと身に付けることができている。一方で、場面に応じて自ら考え動くことができるような力がもう少しあるといい。学校行事などの様々な場面で他者と協力しながらそのような力を身に付けさせたい。	A
	進路実現に向け、情報の収集や分析を主体的に行い、進路決定ができる生徒の育成	①週に1度学年会を実施し、生徒の情報交換を充実させる。 ②困り感を抱えている生徒の支援について、健康相談部からの情報提供とアドバイスを受けるなど連携していく。	生徒(22)・教員(38、39)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	生:95% 教:88%,88%	A	●担任間の連携を密に常に各クラスの情報を共有し、学年全体での動きや、個々の生徒の抱える問題に対して、様々なことを関係部署と連携し迅速に対応できた。また、個々の生徒の進路実現に向けて個別の面談を重ね本人の意向を十分に理解したうえで必要な情報を提供し支援を行った。	○学科によって学習内容が大きく異なるだけに週1回の学年会での情報共有が学年としての意思統一を図るうえでとても大切な場となっている。 ○この学年会をしっかりと活用し、学年としてやるべきことを迅速に把握し対応できるようにしたい。	A
事務部	学校の快適かつ安全な教育環境の整備に努める。	学校教育環境の整備においては緊急性・必要性を考慮して実施するとともに、年間を通じて適切な施設・設備の維持管理に努める。	生徒(31、32)・保護者(14、15)アンケートにおいて、「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:95%,81% 保:91%,89%	B	●快適で安全な教育環境の整備のため計画的な点検、修繕の実施に努めているが、校舎や機械設備等の老朽化に加え、ここ数年は猛暑や台風などの被害により、緊急対応を行うことが増えた。 ●しかし、予算上の制約もあり、全ての案件に対応することが難しい状況である。	○緊急性や必要性を考慮し、優先順位をつけて計画的に施設設備の維持管理を行って、安全確保と環境改善に努める。 ○公費以外の財源確保についても、引き続き検討していく。	B
全体	グランドデザインの実現	学校生活全体を通して人間力(コミュニケーション力、学力、自己管理能力)を育成するとともに、学習活動においてもICT機器の活用、生徒個々の活躍の場の提供等により、学ぶことに対する意欲(自主性、専門性)を高める。	生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合 コミュニケーション(3、13) 学力(6、7、10) 自己管理能力(16、17、18) 自主性(2、14、19) 専門性(4、8、9)	90%以上	80%以上	コミュ: 72%,97% 学力: 35%,86%,87% 自己管理: 95%,98%,91% 自主性: 92%,97%,97% 専門性: 96%,88%,72%	B	●グランドデザインの育成方針にある5つの指標に基づいて15件のアンケートを実施した結果、2件において目標を下回る結果となった。 ●コミュニケーション力のうち、挨拶や時間を守ることはできるが、発表や議論が十分できていない、また学力については試験前には家庭学習に取り組むが、普段から取り組む生徒は少ないという結果になった。	○社会に通じる人間力をもった生徒を育成するために、以下の点について心掛けたい。 ・コミュニケーション力 授業や実習等において、積極的な発言、発表や議論がしやすい環境づくりを推進したい。 ・学力 計画的に家庭学習に取り組む習慣の定着を図るために、ICT端末などを効果的に活用したい。	B
	出雲農林高校満足度の向上	教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	生徒(1)・保護者(25)アンケートにおいて「学校生活に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生:92% 保:91%	A	●生徒・保護者とも高い評価ではあるが、施設設備の老朽化や校則の見直しなどが必要であるという記述もあった。現状に満足せず、より良い学校運営を進めていきたい。	○学校生活をより良いものにするために、生徒からの声に耳を傾け、持続的な改善ができるような運営の仕組みを構築していきたい。	A